

## AFJ REPORT

Vol. 2, No. 2

### 2008 年アメリカ大統領選挙を動かしたのは誰か？

---

2008 年のアメリカ大統領選挙は、アフリカ系アメリカ人が初めて次期大統領に選出されたという点だけで十分に歴史的な結果を残したといえる。

一方で今回の選挙は、特にオバマ陣営が繰り広げた選挙戦略に注目が集まり、IT と選挙活動の連動において一つのモデル（オバマ方程式ともいわれている）を示し、選挙のあり方も変えたといわれている。

具体的な成果としては、例えば若者層を有権者登録活動や投票動員活動への参加、そして実際の投票へと促したり、あるいは、これまで一度も選挙で投票をしなかった有権者を大量に選挙に動員し、投票へと促したりしたと伝えられ、ひいてはそれがオバマ圧勝の一つの大きな要因として指摘されている。

確かに、「期日前投票」のために長蛇の列をつくり、何時間もかけて投票しようとする人々の姿が報道された。それらの多くは、「オバマ次期大統領」へ投票したものと考えられている。そしてそうした状況があるが故に、アメリカの有権者の政治意識や投票行動に大きな変化が起きたのではないかともしられている。

こうした「オバマ人気」の一方で、ブッシュ大統領の不人気、ひいては共和党の不人気という要素も加わり、アメリカ政治の流れが有権者の支持レベルで大きく変化したのではないかとの議論もある。

ここでは、報道に基づく大統領選挙の一般投票の数と、投票日当日に行われた出口調査の数字をもとに、2008 年の選挙では 2004 年と比べてどのような変化が有権者の行動に起きたと考えられるかを探った。

もとより、使用した数値、特に 2008 年の数値は確定されたものではなく、ま

た、出口調査の数値も小数点以下を含まないもので、細かい点を論ずるには適さない。したがってできるだけ大きな変化が認められる項目に焦点をあてて、2004年との比較をしてみたい。

### ▶ 戦後の大統領選挙の数字と比較した 2008 年大統領選挙

オバマ次期大統領が 2008 年に獲得した票は、第二次大戦終了後に行われた 16 回の大統領選挙で選ばれた大統領 (11 人) の中でみると、得票率では第 7 位、獲得した大統領選挙人の数では 10 位に位置する。(1994 年は対戦終了前ではあるが参考表示する。)

	勝者		得票率	選挙人 獲得数	敗者	得票率	選挙人 獲得数
1944	ルーズベルト	D	53.4	432	デューイ	45.9	99
1948	トルーマン	D	49.6	303	デューイ	45.1	189
1952	アイゼンハワー	R	55.2	442	スティーブンソン	44.3	89
1956	アイゼンハワー	R	57.4	457	スティーブンソン	42.0	73
1960	ケネディ	D	49.7	303	ニクソン	49.5	219
1964	ジョンソン	D	61.1	486	ゴールドウォーター	38.5	52
1968	ニクソン	R	43.2	301	ハンフリー	42.0	191
1972	ニクソン	R	60.7	520	マクガヴァン	37.5	17
1976	カーター	D	50.1	297	フォード	48.0	240
1980	レーガン	R	50.7	489	カーター	41.0	49
1984	レーガン	R	58.8	525	モンデール	40.6	13
1988	ブッシュ	R	53.4	426	デュカキス	45.6	111
1992	クリントン	D	42.9	370	ブッシュ	37.4	168
1996	クリントン	D	49.2	379	ドール	40.7	159
2000	ブッシュ	R	47.9	271	ゴア	48.4	266
2004	ブッシュ	R	50.7	286	ケリー	48.4	251
2008	オバマ	D	53.3	364	マケイン	46.7	163

\* 2008 年の数字は 11 月 13 日現在の暫定的数字

2000 年、2004 年の大統領選挙が、得票率においても大統領選挙人の獲得数においても接戦であったことから、確かに 2008 年の選挙結果は、久しぶりに明確な差を示したといえる。またそれゆえにオバマの圧倒的な勝利というイメージがより際立っている。

しかし、戦後という期間で見ると、オバマが残した結果は、得票率においては 88 年にブッシュが選出された選挙、また大統領選挙人に関しては 96 年にクリントンが再選選挙で獲得した数値に次ぐもので、それらの数値は特に歴史的なものだとはいえない。ちなみに戦後、当選した候補の得票率の平均は 52.1%、大統領選挙人の平均は 389 人である。

➤ オバマの動員力は歴史的なものだったのか？

2008年大統領選挙においてオバマ候補は、若者層を中心に新しい有権者を大量に惹きつけたとされている。確かに、今回投票した人の数は、最終的には前回は約315万人上回る約1億2400万人が投票し、史上最多の投票総数となった。しかし、選挙中の報道を通じて得たイメージほどに全体として投票者の数が増加したと言えるかは微妙な結果も示されている。

得票数の比較						
2004年	両者投票総数	ブッシュ(EC:286)		ケリー(EC:251)		票差
		得票率	得票数	得票率	得票数	
	121,068,715	51.2%	62,040,606	48.8%	59,028,109	3,012,497
2008年	両者投票総数	マケイン(EC:163)		オバマ(EC:364)		
		得票率	得票数	得票率	得票数	
	124,386,041	46.7%	58,024,608	53.3%	66,361,433	8,336,325
08年-04年	3,130,579		(4,015,998)		7,333,324	

\* 2008年の数値は11月13日現在の暫定数値です。  
 参照:CNN <http://www.cnn.com/ELECTION/2008/results/president/> 以下、各表共通。

- \* 2008年に投票した人の数は、2004年と比べて約310万人増えている。今回の選挙では、近年になく投票率が高まるのではないかと予想がされてきたが、有権者人口の伸びを勘案すると、2%前後なのではないか
- \* 今回目立つのは、オバマ（民主党候補）の投票数の伸びもさることながら、マケイン（共和党候補）が減らした票（約400万票）である。その少なからぬ部分は今回オバマに流れたと考えられる。そうした人々が今後の選挙でどのように活動するかがポイントになるものと思われる。

➤ 始めて投票した有権者はどのくらいいたのか？

2008年大統領選挙では、これまで投票したことのない黒人や若者を中心に、始めて投票した人の数が劇的に増えたのではないかといわれる。

- \* まず確認しておきたいのは、2004年の大統領選挙では、共和党がキリスト教福音派を大量動員することで勝利したといわれている。しかし、2004年に始めて投票した人の数を振り返ると、民主党のほうが多くの（約90万）新規有権者を惹きつけていた点である。

### ●大統領選での投票経験

	2004年		新規投票者数: 13,184,383				2008年		新規投票者数: 13,525,303			
	全体	%	ブッシュ		ケリー		全体	%	マケイン		オバマ	
			得票数	%	得票数	%			得票数	%	得票数	
ない	11%	46	6,126,077	53	7,058,306	11%	31	4,235,196	68	9,290,107		
ある	89%	51	54,953,090	48	51,720,555	89%	48	53,057,938	50	55,268,686		

\*2008年に始めて投票した人の数は約1350万で、2004年に始めて投票した人の数約1318万と比べ、約32万人程度の増加でしかない。

\*ただし、始めて投票した人のうち、2004年には共和党が46%、民主党が53%をそれぞれ獲得したが、2008年は共和党が31%、民主党が68%となっている。新規動員数全体は前回と比べ約2.6%しか伸びていないが、その内の約7割を獲得した民主党が新規有権者の動員において圧勝したといえる。

#### ➤ 若い人々にどのような変化が生じたのか？

オバマは、18-29歳の層で、前回より約340万、30-44歳の層で約250万、前回より票を伸ばしている。特に18-29歳の層では、全体の三分の二をオバマが得票している。また、30-44歳の層でも、前回とは得票率がほぼ逆転している。マケインは、45歳以上の層で、約400万票減らしながらもかろうじて優位を保った。

●年齢										
年齢層	2004年					2008年				
	全対	ブッシュ		ケリー		全対	マケイン		オバマ	
		%	得票数	%	得票数		%	得票数	%	得票数
18～29	17%	45	9,261,757	54	11,114,108	18%	32	7,153,879	66	14,754,876
30～44	29%	53	18,608,261	46	16,150,567	29%	46	16,568,186	52	18,729,254
45～	54%	53	27,870,018	47	27,264,675	53%	51	23,722,065	49	33,484,130

\*45歳以上の分け方が異なるので、比較のために45歳以上は合算した。

\*18-29歳の層で投票した人の数は、2004年に比べて今回約150万人増加。

#### ➤ 民主党オバマ候補の躍進を支えたのは低所得者層なのか？

5万ドルを境界とした大まかな分類ではある。2004年と比べ今回は、5万ドル以上の層が積極的に選挙に関与した様子がうかがわれる一方、高卒以下の層では前回よりも選挙参加が丁重だった様子がうかがわれる。

●年収										
	2004年					2008年				
	全対%	ブッシュ		ケリー		全対%	マケイン		オバマ	
		%	得票数	%	得票数		%	得票数	%	得票数
5万ドル未満	45	44	23,971,606	55	29,964,507	38	38	17,934,378	60	28,317,439
5万ドル以上	55	56	37,289,164	43	28,632,751	62	49	37,731,746	49	37,731,746

\*5万ドル以下の層は2004年に比べ構成比が7%下がるとともに、実際に投じられた票も前回より700万票以上減っている。この減少は、マケインだけでなくオバマもこの層では前回よりも得票を減らしている。

\*一方、5万ドル以上の層で、得票率は2分された。この層全体では7%アップ、実際の投票数で約940万も増えている。そしてマケインは前回のブッシュより約40万票増やしたものの得票率では7%減らした。オバマは、マケインと得票率で並び、実際の得票数では900万以上、増加票の約95%がオバマに流れたのである。

➤ 民主党オバマ候補の躍進を支えた人々の学歴は？

オバマの当選を支えたのは、大学卒業以上や大学院まで進んだ高学歴層の人々である。

●学歴										
学歴	2004年					2008年				
	全体%	ブッシュ		ケリー		全体%	マケイン		オバマ	
		%	得票数	%	得票数		%	得票数	%	得票数
非高卒	4	49	2,372,947	50	2,421,374	4	35	1,741,405	63	3,134,528
高卒	22	52	13,850,261	47	12,518,505	20	46	11,443,516	52	12,936,148
大学進学	32	54	20,920,674	46	17,821,315	31	47	18,123,046	51	19,665,433
大学卒	26	52	16,368,490	46	14,479,818	28	48	16,717,484	49	17,065,765
大学院	16	44	8,523,238	55	10,654,047	17	40	8,458,251	58	12,264,464

\*非高卒では前回より約10万、投票者の数が増えているが、高卒層で投票した人は前回よりも200万弱減っている。また大学に進学したものの卒業していない人でも、今回は前回より投票した人の数が減っている。

\*高学歴、特に大学卒の層は今回、約300万人投票数が増えている。また大学院まで進学した人の中では約150万人、前回と比べて投票した人の数が増えている。

➤ 有権者の支持政党はどのように変わったのか？

今回、明確となったのはやはり共和党のブランドの衰退であろう。共和党支持と応えた人の割合は前回より 5%減となっている。その分、独立系は 3%、民主党は 2%と増えている。

●支持政党										
支持政党	2004 年					2008 年				
	全体%	ブッシュ		ケリー		全体%	マケイン		オバマ	
		%	得票数	%	得票数		%	得票数	%	得票数
民主党	37	11	4,927,497	89	39,867,928	39	10	4,843,772	89	43,109,575
共和党	37	93	41,659,745	6	2,687,725	32	89	35,371,959	9	3,576,940
独立系	26	48	15,109,376	49	15,424,154	29	44	15,847,830	52	18,729,254

\* 2004 年の共和党候補（ブッシュ）が獲得した票と比べ、マケインは実に 600 万以上の票を減らしている。

\* 一方オバマは、民主党支持層、独立系の双方からそれぞれ 300 万を超える支持を集めた。

➤ 共和党の敗北は保守的有権者の衰退を意味するのか？

有権者をイデオロギー別に見ると、前回と比べ全体の構成比にほとんど変化は見られない。僅かに 1%が中道とリベラルの間で入れ替わっているだけで、保守と応えた人の比率に前回と変化はない。

●イデオロギー										
イデオロギー	2004 年					2008 年				
	全体%	ブッシュ		ケリー		全体%	マケイン		オバマ	
		%	得票数	%	得票数		%	得票数	%	得票数
リベラル	21	13	3,305,176	85	21,610,766	22	10	2,736,493	88	24,081,138
中道	45	45	24,516,415	54	29,419,698	44	39	21,344,645	60	32,837,915
保守	34	84	34,577,225	15	6,174,504	34	78	32,987,178	20	8,458,251

\* 支持政党別では 600 万の共和党票を失ったマケインであるが、保守票で失ったのは 160 万票である。

\* イデオロギー項目でもっとも大きく票が動いたのは中道票である。前回共和党候補(ブッシュ)を支持した中道票と比べると、マケインは 300 万以上も票を減らしている。

\* オバマは前回のケリーと比べたとき、リベラル層(+3)よりも中道 (+6) や保守 (+5) で得票率が伸びている。

➤ まとめ

- \* 2008年の大統領選挙において、オバマは多くの若者層を魅了しただけでなく、新たな有権者獲得競争において大成功を収めた。
- \* オバマの勝利に重要な役割を果たしたのは、比較的所得の多い、学歴の高い人々であった。
- \* 今回初めて投票に行った人々は今後の党派性の定着を考えると重要である。しかし、今回の結果に限るならば、むしろ、前回は共和党候補を支持した中道層や保守層の票がオバマへと流れたことが大きい。もちろん彼らが今後、民主党候補の支持に定着するか否かも重要なポイントとなる。
- \* 共和党支持者の減少、共和党支持者の共和党候補離れに比べると、自らを「保守」と考える人々の共和党候補離れは四分の一程度にとどまっている。ブッシュ政権の不人気さ故の共和党ブランドの低下が大きかったことを伺わせる。
- \* 以上の傾向は、あくまで全国規模で数字を見たときのものである。個々の州、特にバトル・グラウンド（激戦州・重点州）でどのような動きがあったかは別途に見る必要がある。

以上

【文責：中村克彦（AFJ 研究部長）】